

平成27年度 事業報告書

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

京都府菓子卸商業組合の皆様には、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は、当組合の事業運営に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
ここに第27期事業年度の決算状況をご報告申し上げます。

I 概 況

近々の日本国内の景況感は、諸々の不安要素が顕在化、政府や日銀の「景気は回復基調にある」との発言を疑問視せざるを得ません。円高や中国経済の大減速、株価の乱高下もあり、全く先の読めない状況です。中小零細企業の多くは、依然として厳しく感じられ、業種や規模による格差も拡がり、実体経済とかけ離れた大きなギャップを感じています。我々の業界を取り巻く環境も既存の市場が縮小する中で、原材料等の高騰による価格の上昇、人手不足による人件費の高騰、また安全安心の基準が高くなり、対応力のない販売店、生産者の廃業、倒産が全国的に広がっています。

一方、インバウンド景気に潤っているところもありますが、製造・卸・小売がそれぞれ適正利潤を確保しなければ、社員の賃金UP、新たな設備投資は困難です。また、食品表示法が改正され、加工食品の栄養表示が義務化されること、固有記号や一括表示欄の表示項目が細かく見直されています。PB、OEM商品を扱う卸業者は、今後の動向を注視する必要があります。更に5年後に食品製造者は、HCCPが義務化の方向です。今後も安全基準による規制が更に強化されることが予想され、マーケットが大きく変化します。絶えず消費者視線で顧客のニーズを捉えて、戦略を立てることが必要だと思えます。

さて、当組合の活動は、5月の通常総会には、貴船神社の高井和大宮司をお招きして、貴船神社の歴史やお菓子には切っても切れない「水」について深いところまで教わりました。10月には25・26日両日、北山ハロウィン企画に初参加致しました。当組合のブースに立ち寄って頂いた1,000名の方々にお菓子を振る舞い、また抽選によりお菓子で作ったバッグや帽子をプレゼント致しました。年々盛んになるハロウィン市場は、バレンタイン市場よりも経済効果が大きくなり、更に市場は拡大すると見込まれています。当組合は、京都の独自性を活かした需要喚起の活動を今後も続けていきたいと考えています。また、2月3日の吉田神社節分祭には、当組合からも5名がお手伝いに参加、豆茶を参拝者に振る舞いました。3月には、恒例の製販合同ボウリング大会を開催し、組合員とその社員達がお互いに交流を深め、74名の参加者全員にプレゼントが当たり、楽しいひと時を過ごしました。

人口減少、高齢化が進みこれからの10年、日本は大きく変化すると思われれます。自治体が、コンパクトシティー化を目指し、地域が将来どのように変わり、生活者が何を求めて来るのかを予測しなければなりません。今後、あらゆる分野でICT化が進み普及する中、市場も多様な変化をするでしょう。その変化に敏感に対応する対応力、そして未来を見据えた先見力、先取性、実行力が問われてきます。我々京都の菓子業界も10年先を見越した戦略を、製販共々真剣に話し合うことが必要な時期に来たように思います。

今後更にメーカー様各位とのコミュニケーションを深め、知恵を出し合って、変化し続ける市場環境にマッチした商品やサービスを創造し、共に繁栄できることを願っています。
今後とも、ご支援ご協力賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

平成28年4月吉日
京都府菓子卸商業組合
理事長 谷口容造